



一般教育演習（フレッシュマンセミナー）： グローバル・キャリア・デザイン4

第18回ファースト・ステップ・プログラム（FSP）中国 全体報告書

期 間：2017年3月5日～3月19日

訪問先：中華人民共和国（上海・杭州・北京）

編 集：第18回FSP中国 記録広報班

（柏倉梨花、佐藤健太、牧野琴美、松原彩花）

目次

| | |
|--------------------------------------|----|
| ● ファースト・ステップ・プログラム（FSP）について | 2 |
| ● 参加メンバー紹介 | 3 |
| ● 研修日程..... | 5 |
| ● 企業・組織訪問..... | 7 |
| 上海旭通広告有限公司様 | 7 |
| 株式会社ダイフク 蘇州工場様..... | 8 |
| 阿里巴巴集団様..... | 9 |
| 国際交流基金 日中交流センター様..... | 11 |
| 独立行政法人 国際協力機構（JICA）中華人民共和国事務所様 | 11 |
| ● 大学訪問..... | 13 |
| 复旦大学 | 13 |
| 浙江大学 | 14 |
| 北京師範大学 | 15 |
| ● 訪問国調査活動..... | 16 |
| ● FSP 中国メンバーへのアンケート | 17 |

ファースト・ステップ・プログラム (FSP) について

ファースト・ステップ・プログラム (FSP) とは、北海道大学の「一般教育演習 (フレックス・シユマンセミナー)」の1つである「グローバル・キャリア・デザイン」として開講されている授業科目である。その名前には海外に向けての第一歩という意味が込められ、海外語学研修や国際インターンシップの準備段階にある、主に1、2年次の学生を対象としている。

プログラムは夏季と春季にそれぞれ2～3コースずつ開講され、すべての課程を修了した学生には「一般教育演習」2単位が付与される。(パンフレットおよびホームページから抜粋)

私たち記録広報班が考えるファースト・ステップ・プログラム (FSP) 中国について

海外研修のほかに準備授業や事後授業によって、手厚いサポートを受けることができるのが、ファースト・ステップ・プログラムの特徴でもある。約2週間の海外研修においては、協定校への訪問で学生との交流や授業受講ができ、また、企業・組織訪問では、現地で活躍する社会人の方々を訪問させていただきご講話を頂戴することができる。これらにより、海外の高等教育機関についての知見を広めることができ、今後のキャリアデザインについてのヒントを得ることも可能である。特に中国プログラムでは歴史体験学習が充実していたので、訪問国についての幅広い知識を得ることができた。

概要

海外研修期間：2017年3月5日(日)～3月19日(日)

渡 航 先：中華人民共和国(上海・杭州・北京)

参 加 費 用：19万円程度

【費用に含むもの】

航空運賃、宿泊費、車両借り上げ代、交通費等

奨 学 金：受給要件を満たす学生には、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)奨学金(6万円)が支給された。

参 加 人 数：9名

※本報告書は、第18回ファースト・ステップ・プログラム(FSP)中国について報告するものである。

※本頁以降、第18回ファースト・ステップ・プログラムを「FSP」、もしくは「FSP 中国」と呼称する。

参加メンバー紹介

リーダー・サブリーダー

グループ全体の取りまとめを行う。

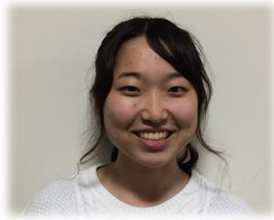
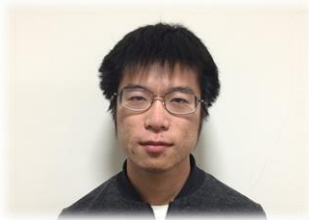


法学部・2年 中里規子

文学部・2年 土屋憧真

総務企画・企業訪問班

訪問校のしおり作成や協定校での学生交流の企画運営、訪問企業・組織等の調査や議事録の作成を行う。



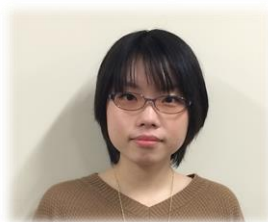
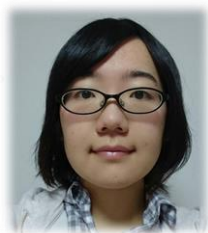
工学部・2年 磯野圭

文学部・2年 菅原有紗

歯学部・1年 伊藤寛倫

プレゼンテーション・記録広報班

協定校にて英語で北海道大学を紹介するプレゼンテーションを行ったり、SNSでFSPの活動を報告したりする他、帰国報告会で海外研修について報告する。また、本報告書の作成も記録広報班が行った。



| |
|-------------|
| 文学部・1年 牧野琴美 |
|-------------|

| |
|-------------|
| 文学部・1年 松原彩花 |
|-------------|



| |
|-------------|
| 法学部・1年 柏倉梨花 |
|-------------|

| |
|-------------|
| 理学部・1年 佐藤健太 |
|-------------|

(注) 記載の学年は参加当時のものである。

研修日程

| 日付 | 都市 | 活動内容 |
|------|-------|---|
| 3/5 | 札幌→上海 | 7:55 新千歳空港 (JAL3040) →9:35 成田空港 14:00 成田空港 (JAL877) →16:45 上海浦東空港 復旦大学手配バスにて空港から大学内ホテルへ移動、チェックイン後全員で夕食 |
| 3/6 | 上海 | 復旦大学訪問 10:00~11:30 講義①「中国の若者文化」 13:00~14:30 講義②「上海の歴史と文化」 その後、訪問国調査活動 |
| 3/7 | | 10:30~12:00 企業・組織訪問① 上海旭通広告有限公司様 14:00~ 復旦大学学生交流、その後訪問国調査活動 19:00~ 上海エルム会 (OB会) との懇談 |
| 3/8 | 蘇州 | 8:00 蘇州に向け出発 10:30~12:00 企業・組織訪問② 株式会社大福蘇州工場様 その後虎丘・拙政園を見学後、19:00 上海着 |
| 3/9 | 上海→杭州 | 10:00~12:00 振り返りミーティング 復旦大学手配バスにて上海虹橋駅へ 15:05 上海虹橋駅 (G1537) →15:54 杭州東駅 浙江大学手配バスにて大学内留学生宿舎へ移動、チェックイン後全員で夕食 |
| 3/10 | 杭州 | 浙江大学訪問 9:00~12:00 浙江大学に留学中の日本人学生と交流、その後キャンパス見学 13:00~14:30 講義③「杭州の歴史と文化」 その後学生交流と訪問国調査活動 |
| 3/11 | 紹興 | 8:00 出発→10:00 紹興歴史体験学習 蘭亭・魯迅記念館・大通学堂・八字橋を見学 17:00 浙江大学到着 |
| 3/12 | 杭州 | 9:00~16:00 杭州歴史体験学習 六和塔・茶葉博物館・京杭大運河博物館等見学 一部解散し訪問国調査活動 |
| 3/13 | | 9:00~12:00 企業・組織訪問③ 阿里巴巴集団様 13:00~15:00 イオン様・ニトリ様見学 15:00~18:00 振り返りミーティング |

| | | |
|------|-------|---|
| 3/14 | 杭州→北京 | 7:00 浙江大学手配バスで杭州東駅へ 9:05 杭州東駅 (G36) →14:45 北京南駅 北京師範大学手配バスで大学内ホテルへ チェックイン後、全員で夕食 |
| 3/15 | 北京 | 北京師範大学訪問 9:30~12:00 講義④「中日比較文化」 13:00~15:00 学生交流 交流後、北京師範大学生らと訪問国調査活動 |
| 3/16 | | 10:30~12:00 企業・組織訪問⑤ 国際交流基金様 13:00~14:30 企業・組織訪問⑥ JICA 中国様 15:00~16:30 企業・組織訪問⑦ 日立中国有限公司様 |
| 3/17 | | 8:30~18:00 北京歴史体験学習 故宮博物院・頤和園見学 |
| 3/18 | | 8:00~16:00 北京歴史体験学習 万里の長城・明十三陵見学 |
| 3/19 | 北京→札幌 | 7:00 北京師範大学手配バスで空港へ 11:35 北京首都空港 (JAL860) →16:05 成田空港 成田空港にて一部解散 18:55 成田空港 (JAL3049) →20:45 新千歳空港 |

企業・組織訪問

■ 上海旭通広告有限公司 様

上海 3/7

文責 松原

訪問先概要

「Management by All(全員による経営)」「コンシューマー・アクティベーション・カンパニー」を企業理念として掲げ、顧客の成功のために個人の能力を最大限に発揮することを目標にしている総合マーケティング企業。中国に早くから進出していたこともあり、中国国内の広告会社ランキングのトップ10に入っている。長年にわたって構築した独自のマーケティングコミュニケーションとブランディングを駆使し、幅広い業界の広告を手がける。

<参考 URL>最終閲覧日：2017/04/17 <https://www.adk.jp/> (ADK アサツー・デイ・ケイ)

ご講話

前半ではアサツー・デイ・ケイ様の歴史や理念を、後半では現代中国の広告やメディア事情について蒲生岳人様 (Chief Director)、久原幹央様 (Digital Planning Director) にご説明いただいた。中国では想像以上にインターネットが普及しているので、その安価さ・手軽さ・市民の認知度の高さから、広告もどんどんネット上のものにシフトしているようだ。

質疑応答では「社員の国籍や男女比」「ワークライフバランス」「日本と中国の広告の違い」など多岐にわたる項目について尋ね、広告業界や異文化に対する興味・理解を深めた。「新しい広告はアメリカで生まれ、日本で試し、中国に入る」という言葉には思わず笑いが漏れた。

所感

訪問前は、「広告＝テレビのCMや店頭のポスター」という強いイメージがあった。しかし、「実際のアプローチの仕方や対象は、広告を依頼する側・出す側・受け取る側によって大きく異なってくる」と聞き、非常に面白く感じた。今回の訪問により、既存の考えにとらわれず流行に即座に対応し、これからも変化を続けていこうという広告業界に、一層興味が湧いた。そのお陰で広告を見かけるたびに、その広告のターゲットや工夫、隠されたメッセージを探すようになった。



←ご講話を真剣に聞くメンバー

チーフディレクター蒲生様、
デジタルプランニングディレクター久原様、



徐敏様、張微様との集合写真→

■ 株式会社ダイフク 蘇州工場 様

蘇州 3/8

文責 柏倉

訪問先概要

株式会社ダイフク様は物流システム業界世界最大手企業である。事業内容としては、大きく一般製造業・流通業向けシステム、半導体・液晶生産ライン向けシステム、自動車生産ライン向けシステム、空港向けシステム、ライフスタイルプロダクト、電子機器が挙げられる。前者4つは保管システムやピッキングシステム、搬送システムなどを扱い、ライフスタイルプロダクトは主に洗車機などを扱う。1937年の創業以来、日本の産業界の発展とともに成長し、新しいシステムを開発している。現在は、中国、韓国、インド、シンガポール、マレーシアなどに事業を展開している。

〈参考 URL〉最終閲覧日：2017/04/10

<http://www.daifuku.com/jp/> DAIFUKU ホームページ

ご講話

杉本常夫様には主にグローバルキャリアについてご講話いただいた。特に、海外で働くうえでは普段からネットワークを意識することが大切であるとのことだった。現地の従業員にも自分から接していくことで円滑なコミュニケーションをとることができ、それによって円滑なビジネスも可能になるそうだ。また、国が違えば常識も違い、自分が当たり前だと思っていることも当たり前ではなかったことを知ったそうだ。（このことは所感で詳しく記載する）したがって、いろいろな目線でものを考える力が重要になるとのことである。

↓ ご講話の様子

所感

杉本様もおっしゃっていたことだが、日本では当たり前のことも中国では全く通用しないということに驚いた。もちろん、日本の常識が中国の常識ではないということはわかってはいたがこれほど差があるとは思っていなかった。たとえば、ドアを開けばなしにしないということが守れない中国人が多いそうだ。これは文化の違いによるもので、ドアを毎回閉めずに生活しているとこのような小さな規則でも守ることが難しくなるのだという。また、中国では洗車は手洗いで行うのが一般的で、そのために洗車機が売れないというお話は意外だった。中国は近年車の保有率が上昇していると聞いていたので、洗車機はニーズが高まっていると予想していたが、そうではなかった。



阿里巴巴集団 様

杭州 3/13

文責 佐藤

訪問先概要

阿里巴巴集団様は、オンライン取引を身近にすることで小規模ビジネスを支援することを目的とし、ビジネスをどこでも簡単に行える社会にすることを企業理念とした主に企業間電子商取引のオンラインマーケットを行っている会社である。主な事業として、アリババドットコム、タオバオマーケティングプレイスや天猫 Tmall などを行っている。また、ビジネスをどこでも簡単に行える会社にするという企業理念を達成するために、お客様第一・チームワーク・変化を受け入れる・誠実さ・情熱・コミットメントの6つの価値を大切にしている。杭州の湖のほとりの小さなアパートからジャック・マー氏（阿里巴巴社様の創設者で現在の会長）を含め19人から始めた会社であるが、現在では中国のオンラインマーケットの9割以上の市場を占めるほどの大会社となった。

<参照 URL>最終閲覧日：2017/04/17

[http://www.alibabagroup.com/en/global/home\(AlibabaGroup\)](http://www.alibabagroup.com/en/global/home(AlibabaGroup))

<http://www.alibaba.co.jp> (Alibaba Japan)

ご講話

ご講話では、阿里巴巴様の歴史・伝統的な文化・キャンパスリクルーティングという3つのテーマでお話ししていただきました。歴史については、ジャック・マー氏が友人18人と湖のほとりのアパートから始めた1999年から時が経つにつれてどのように現在のような大きな会社になっていったかを人員の増加や取り扱う事業を比較させながら振りかえって教えていただきました。伝統的な文化としては、入社してある年数になるとプレゼントがもらえたり、阿里巴巴様の社員が会社内で結婚式を挙げたりするなど、独自の伝統的な文化についていくか説明していただきました。キャンパスリクルーティングでは、阿里巴巴様がこれまでどのような人材を雇用してきたかや今後どのような人材を欲しているかについて紹介していただきました。

所感

ご講話を拝聴する前にまず入口の警備の厳重さに驚かされた。次に、会社を大学のキャンパスに見立てるようで入口から目的のビルまで行くのにとっても時間がかかり、その会社の大きさに驚かされた。ご講話は英語で行われたため最初は戸惑う部分もあったが、ご講話の中にはコミカルな内容も含まれていたため聞いてとても楽しかった。そのなかでも一番印象的だったのは、社員の方々が会社で逆立ちをしていたことだ。これにはちゃんとした理由があり、社員の皆様が運動不足にならないよう狭いところでも多くの人ができる運動だったからだそうだ。このような誰も思いつかないがちゃんと理にかなっているようなことを常日頃から考えて想いついたこと

を实践していけるからこそ、ジャック・マー氏は阿里巴巴様をこんなにも世界で名前が知れ渡るような有名な会社にできたのではないかと思った。



↑ 阿里巴巴社様の前で記念撮影

国際交流基金北京日本文化センター 様

北京 3/16

文責 牧野

訪問先概要

独立行政法人国際交流基金（The Japan Foundation）は世界の全地域において、総合的に国際文化交流を実施する日本で唯一の専門機関である。日本の友人を増やし、世界との絆をはぐくむため、①文化交流芸術（文化）②日本語教育（言語）③日本研究・知的交流（対話）、の3つを通じて日本と世界をつなぐ場を作り、人々の間に共感や信頼、好意を育んでいる。今回訪問した北京日本文化センターは、未来志向の日中関係を築く礎となる、より深い日中間の青少年交流・市民交流の実現を目的としている。

<参考 URL>最終閲覧日：2017/04/17 <http://www.jpf.go.jp/j/>（国際交流基金 HP）、<http://www.jpfbj.cn/jp/>（北京日本文化センター日本語 HP）、<http://www.jpfbj.cn/>（同 中国語 HP）

ご講話

ご講話を頂戴したのは、国際交流基金北京日本文化センターの高橋耕一郎所長である。まず、日中関係の歴史と現状をわかりやすく教えていただいた。戦後の日中関係については、中国は日本の経験に学び、日本との交流を拡大し、一般市民が日本の映画やドラマを通して戦後の日本を知っていくなど、興味深いお話をしていただいた。日中交流センター発足の経緯、現在の活動などもうかがったが、その活動の中では日中の高校生の交換留学・大学生の交流のサポートなどをされていて、未来を担う青年の育成に力をいれているとのことだった。

所感

日本に留学するとしたら、中国の高校生はやはり東京に行きたいようだが、主管部署の日中交流センターの方針としてあえて地方の高校に行かせるようにしているそうだ。その理由は、日本の多様性を知ってほしいということ、この機会にその地でしか体験できない方言にも親しんでほしいということである（首都圏はこれからいくらかでも訪問する機会があるし、「標準語」はどこでも学ぶことができる）。方言を話せるとその地方の人と仲良くなりやすくなるからだそうである。北海道はあまり方言が強くないが、確かに同じなまりの人だと思えると嬉しいのではないだろうか。地元の言葉を大切にしようと感じた。

高橋所長はもともと書店でお仕事をされていたそうだが、大学時代の同級生の繋がりで国際交流基金に転職することになったということだった。それまでは国際交流基金で働くことは考えたことが無かったそうである。このことから将来どんな仕事につくかは予想ができないこと、そして人との繋がりの大切さを感じた。



高橋所長と記念撮影⇒

独立行政法人 国際協力機構（JICA）中華人民共和国事務所 様

北京 3/16

文責 牧野

訪問先概要

海外に約90か所、国内に約15か所の拠点を持ち、約1,800人の職員が所属する、国際協力のための組織である。グローバル化に伴う課題の対応、公正な成長と貧困削減、途上国における国家のガバナンスの改善、人間の安全保障の実現、の4つを使命とし、果たしていくことを理念としている。日本が行っているODA（政府開発援助）のうちの一つがJICA様の活動である。

<参考 URL>最終閲覧日：2017/04/17 <https://www.jica.go.jp/mobile/index.html>(JICA HP)

ご講話

ご講話を頂戴したのは、JICA 中華人民共和国事務所勤務の中村麻紀様である。中村様ご自身の自己紹介、JICA 様及びODA（政府開発援助）の関係及び詳しい援助地域や内容、開発途上国の定義や問題、そして『国創り』の仕事について、スライドを使って私たちにわかりやすいように説明して下さった。中村様のこれまでのJICA 様での仕事は多岐にわたり、その度にいろいろな場所で仕事をされてきたそうである。JICA 様の主な事業内容は、技術協力、無償資金協力、有償資金協力、市民参加協力、国際緊急援助であり、中国事務所では、主に急速な経済成長がもたらした環境問題等の諸問題の改善のための技術協力などを実施しているとのことだった。

所感

中村様は、JICA 様が行った事業の事後評価の仕事、モンゴルなどの発展途上国での支援など、様々な経験をされてきた。JICA 様と一口に言ってもいろいろな仕事があるのだ。また、仕事のモチベーションについては、「国レベルの解決ができること。やっていることのスケールが大きいことがモチベーションです。」とおっしゃっていた。スケールが大きい分責任も大きく、緊張感を持ってしなければならない仕事である。私ならきっと失敗を恐れてやりたくないと思ってしまうだろう。しかし中村様はそこにやりがいを感じていらっしやって、衝撃を受けた。緊張感を持ってしなければならない仕事である。私ならきっと失敗を恐れてやりたくないと思ってしまうだろう。しかし中村様はそこにやりがいを感じていらっしやって、衝撃を受けた。



← 中村様と
記念撮影

大学訪問

复旦大学

上海 3/6~7

文責 松原

訪問先概要

共産革命以降いち早く国内に海外留学制度を取り入れた大学の 1 つで、年間 12 か国から約 7,000 人の学生が留学に来ている。卒業生の 10%近くが政府官僚になっているほか、金融、弁護士、公認会計士などの分野でも高い就職率を誇る名門総合大学である。

<参考 URL>最終閲覧日：2017/04/17

<http://fudan.edu.cn/index.html> 「复旦大学 Fudan University」

<http://daxue.liuxue998.com/170201%20fukutan%20ki%20.html> 「复旦大学～『中国の大学データベース』」

訪問内容

6日は「現代の中国の若者事情(価値観や興味関心)」を李征先生、「上海の歴史」を馮瑋先生に講義をしていただいた。中国では都会に出ている学生も春節には何があっても故郷へ帰ることや、祖父母は孫の子育てや登下校の送り迎えを手伝うため、自分の子どもの住む地域へ引っ越してくることなど、「家族」を最も重視しているようだ。

7日の午前中はキャンパス見学、午後は日本語学科の学生たちと交流を行った。世界各地からの留学生も大満足のバラエティ豊かな大食堂や、居心地の良さを追求した学生会館に圧倒された。学生交流では、総務企画班が企画した「共通点探しゲーム」と「伝言ゲーム」で親睦を深めた。

所感

中国人が最も大切にしているものは「家族」ということで、核家族化や孤独死などが話題になっている日本に住む身として、深く考えさせられた。また、グローバル社会を生き抜く上で、「違いを見つけ、疑問に思う」ことが財産になるとの言葉にも感銘を受けた。

FSP 中国での協定校訪問では毎回、現地学生に北海道大学を留学先の候補として検討してもらうためのプレゼンテーションを行ったが、初回であった复旦大学では過度の緊張により暗記したはずの台本が出てこなくなってしまった。しかし、ゲームやフリートークは双方が英語や互いの国の言語で歩み寄ることで、非常に楽しく有意義な時間を過ごすことができた。



←ゲームのルールを説明中

→学生の皆さんとの集合写



浙江大学

杭州 3/10
文責 牧野

訪問先概要

杭州市内に5つのキャンパスを有する。学部生数は23,897人、大学院生(修士課程)数は14,142人。(2016年6月現在)短期留学生を含めて、外国人留学生が5,163人に達している。留学生は毎年増加しており、特に学位取得を希望する留学生が増加している。7学部36学科という、数多くの学科を持つ総合大学である。

<参考 URL>最終閲覧日：2017/04/17

<http://www.zju.edu.cn/english/>「杭州大学 Zhejiang University」

https://spc.jst.go.jp/education/university/univ_063.html「サイエンスポータルチャイナ 教育」

訪問内容

浙江大学へ留学している大学院生・研究院生の方と、2,3人のグループになり、中国の文化や自身のキャリアについて英語と日本語で話し合った。今回お会いした大学院生・研究院生の大半は日本人の方だったので、話し合いの後、主に日本語で広大なキャンパスを案内・解説していただいた。その後、場所を移して「杭州イメージスキャン ～伝統と現代の融合～」という題目で、浙江大学の超銀姫先生に講義をしていただいた。中国伝統文化のモデルといわれている杭州の魅力を、文化・芸術・科学の発達や、世界遺産である西湖にまつわる伝説などから教えていただいた。講義のあとは、浙江大学の別のキャンパスで日本語学科の学部生と交流をした。

所感

授業の中で、伝統的景観の構図は近景に水、遠景に山が入っていることが印象的だった。近景の水はこの世の人の生活を表し、遠景の山はあの世を表しているとのことである。この大学訪問の翌日、西湖に行ったが、授業のおかげで景色をより深く楽しむことができた。また、人間の生には前世・現世・来世の三世があり、現世で出会う人とは前世や来世で縁があるとおっしゃっていた。中国では人との縁を大切にす文化があるのだと強く感じた。

交流した日本語学科の学生の多くが学部1,2年生だったため私たちと年齢も近く、共感できる部分も多かった。交流した学生は特に日本のドラマやアイドルに興味を持っている人が多く、FSP参加者よりも詳しいほどだった。日本のドラマや映画が中国で支持されていると感じた。



← 大学の様子



← ホテル。北大生を歓迎する表示

北京師範大学

北京 3/15

文責 柏倉

訪問先概要

25の学部からなる総合大学で、82万平方メートルの校地をもつ。校訓は「学為人師、行為世範（学んで世の人の師となり、行いて世の人の範となる）」。劉曉波と莫言の二人のノーベル賞受賞者を輩出している。北京大学、清華大学、中国人民大学とともに北京四大大学のひとつに数えられる。

〈参考 URL〉最終閲覧日：2017/04/10

<http://www.bnu.edu.cn/>「北京師範大学-Beijing Normal University」

<http://daxue.liuxue998.com/040701%20psihan%20ki%20.html>「北京師範大学～「中国の大学データベース」

訪問内容

宛金章先生による「中日比較文化」の講義を受けたあと、昼食をはさんで学生交流を行った。

講義では、「儒学・道学・仏学」の3つを支柱にして日本と中国の文化を主に思想の視点から解説していただいた。日本と中国におけるこれらの思想体系の変遷の歴史を追うことで、両国の思想の潮流を確認した。宛先生によると、文化比較は双方向でなくてはならず、中国と日本、双方の視点から論じる必要があるそうだ。また、授業の後半には中国における春節の様子を動画で見せていただいた。

学生交流では、日本語学科の学生に対する紹介ということで、これまで英語で行ってきた北海道大学の紹介を日本語で行った。その後、北海道大学の学生と北京師範大学の学生が混ざった3つのグループに分かれ、特定のテーマで話し合い、その結果を発表するというような活動を行った。北京師範大学の学生には韓国からの留学生もいたため、テーマとしては、「日中韓の教育制度比較」や「日中韓で昨年流行した物事」、「自分の将来の夢」などがあつた。

所感

これまで受けた講義はその土地の文化や歴史を学ぶものだったが、宛先生の講義は日中の文化を比較するというものでとても新鮮だった。学生交流においては、これまでの大学と違って韓国からの留学生がいたので、中国にいながら韓国のことを知ることもでき、面白い体験をすることができた。また、日本の大学と中国の大学で似ているところと違うところを知ることができた。中国の学生は文系でも大学院に進む人が多いと聞き、日本との違いを感じた。



学生交流の様子↑

訪問国調査活動

企業・協定校訪問や歴史体験学習がおわったあとの夕方の時間は、事前に各自が設定した課題に自由に取り組んだ。ここではその一部を紹介したいと思う。

○古くて新しい街・外灘(ワイタン)の魅力

3/6 に女子グループは、19 世紀後半～20 世紀前半の租界時代に建設された西洋式高層建築が建ち並ぶ外灘へ。どれほど西洋の文化が色濃く残っているのかを調査した。行政と経済の中心だった名残で現在も西洋建築の官庁と銀行が多いだけでなく、最近では高級ブランドやバーが出店している。歴史的景観を活かしたシックでレトロな観光地になっていた。 川の向こうは有名な上海タワー→



○WeChat での聞き取り調査



計画段階では「英語で一般通行人や協定校の学生に聞き取り調査を行う」予定だった参加者も多かったが、中国での英語普及率や活動時間を考慮して、協定校学生への WeChat (中国では LINE や Twitter、Facebook が使えず、SNS といえばこのアプリが定番) 調査に変更した。『中国と日本のお茶の違い』『中国で人気の日本文化』など様々なテーマについて積極的に調査することができた。

←WeChat。LINE のスタンプのような「ステッカー」を使うことができる。

相手の学生は流暢な日本語を使いこなしており、刺激を受けた。

○中国 4 千年の技・生の雑技を間近で

3/15 に男子グループは雑技を見に行った。宇宙飛行士の衣装を着た人の綱渡りや、球の中でバイクが 8 台スレスレに交差しながらの走行など、手に汗握る演目の連続だった。入場料の高さからか、客はほぼ欧米人で、現地の方はまず見かけなかった。



撮影禁止だったのでネット上の写真を参考までに。→
8 台のバイクが全員後ろの球の中で爆走する。

<http://www.shanghainavi.com/special/5034455> (「上海ナビ」 ※行ったのは北京の雑技)

FSP 中国メンバーへのアンケート

現地研修中に、今回の FSP 中国に参加した 9 人のメンバーにアンケートを実施した。

内訳 学年 1年：5人 / 2年：4人

男女 男：4人 / 女：5人

文理 文系：6人 / 理系：3人

海外経験 あり：7人 / なし：2人

Q1:FSPに参加した目的をお書きください。

- ・ 中国の文化や歴史、国そのものに興味があった、前から中国に行きたかった
- ・ 世界で働く日本人や留学経験のある先輩と話したかった
- ・ 自分の視野を広げるため

など

Q2:FSP参加前に何か不安があった場合、その内容と参加後の変化をお書きください。

- ・ おなかを壊しそう→壊さなかった。
- ・ 中国語未経験→既習者や引率の先生のおかげで乗り切れた、学習意欲も沸いた。
- ・ 空気汚染→上海・杭州は大丈夫。北京はマスクが必要。

Q3:FSPで何か心残りや後悔があれば内容をお書きください。

- ・ 事前に中国の歴史や中国語についてもう少し触れておけばよかった。
- ・ 電子辞書を持ってこなかった。(漢字だからといって油断は禁物)

※FSP恒例の英語学習不十分による後悔は見受けられなかった(施設や店舗でもあまり英語が通じないため)

Q4:FSPを通して身についたことや発見したことがあればお書きください。

身についたこと：積極性、事前準備の大切さ、団体行動のマナーと面白さ、

中国語日常会話、外人に話しかける勇氣、

……など

発見したこと：中国のネット普及・ネット環境の充実度、中国国内の貧富の差、

日本人は中国人へ偏見を持っているということ

……など

Q5:中国で「良かったこと」や「もっと良くなると嬉しいこと」をお書きください。

良かったこと：道路が自動車用・自転車用・バイク用と分けられているところが多い、
料理が美味しい、通りすがりの人が意外に親切(改札やレジで助けてくれた)

もっと良くなると嬉しいこと：公共施設の英語普及率上昇と衛生向上

Q6:FSP での活動や訪問の中で、キャリア形成に最も有益だったものをお書きください。

- ・メンバーや現地の学生との交流で、留学や研修に参加することに意欲が沸いた。
- ・企業訪問やエルム会(上海で活躍する北大卒業生・中国から北大へ来ていた留学生のOB・OG会)で海外で仕事をするについてのお話を聞き、自分のやりたいことの幅が広がった・目標を持つことの重要性を学んだ。 ……など

Q7:今後 FSP を検討されている方に何かメッセージがあればお書きください。

「引率の方がいるので海外でも安心して生活できます。」

「プログラムを見て面白そうだなと思ったら、参加して間違いないと思います。」

「グローバル化に伴う、自分のキャリア形成に大きな影響を与えること間違いないし。様々な経験を通して積極性・協調性を養うことができ、自分を成長させられます。」

「観光・語学が目的なら物足りないかもしれないが、キャリアデザインの面では非常に貴重かつ豪華なプログラム。キャリア形成に興味がある人におすすめ。」

「漠然としてでも良いのでやりたいことがある・これからやりたいことを見つけたいという人は、この FSP で何かしら手掛かりを掴めるかもしれません。」

<所感>

中国といえば 4 千年の歴史と、その中で発達した食文化である。どの料理も基本的に複数人で食べることを想定しているため、大皿に盛られて来て、見ているだけでもテンションが高くなってしまう。メンバーの写真フォルダは自然と食べ物でいっぱいになった。

日本で食べられる中華料理は日本人好みに甘めの味付けにしてあるので、最初は少し違和感を抱くかもしれないが、慣れるととても美味しいものばかりである。これこそ、他の FSP では味わえない、FSP 中国ならではの醍醐味だ。アンケートでも「料理が美味しかった」「また食べたい」といった声が多く寄せられた。食から始まる異文化理解があっても良いと思う。

アンケートに協力してくれた参加者の皆さん、ありがとうございました。

終わりに

ここまで読んでくださり、ありがとうございます。

中国での濃密な 2 週間は、私たちの価値観や常識を大きく変える転機となりました。しかし、同じ経験をしたとはいえ、学んだこと・感じたことは人それぞれです。アンケート欄に書ききれなかったことも沢山あるので、「FSP についてもっと知りたい！」という方は是非参加メンバーに声をかけてください。

大学の 4 年間は長いように感じられますが、油断しているとあっという間に過ぎてしまいます。その中で、このような貴重な経験をできたことはきっと人生の財産になるはずですよ。私たちはこの研修で得た経験や知識を活かし、各自のキャリア形成・実現に向かって、次の一步：セカンドステップへと踏み出していきたいと思います。

皆さんも、最初の一步を踏み出してみませんか？

謝辞

まず、お忙しい中時間を割いてくださった企業・組織の方々や、充実した活動を用意し、温かく歓迎してくださった協定校の方々に感謝いたします。

さらに、中国に関する豊富な知識と堪能な中国語で 15 日間私たちを支えてくださった国際連携機構・野澤俊敬名誉教授、事前・事後授業で懇切丁寧に説明してくださった国際連携機構・肖蘭先生、まだチームとしてまとまっていなかったメンバーたちを率いてくださった国際連携機構・川端千鶴さん、常に冷静に的確なアドバイスをくださった国際連携機構・石倉香理さん、過去の北京での経験をもとに案内・サポートをしてくださった国際部・対馬樹里さん他、FSP に携わってくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。

最後に、2 週間の苦楽を共にしたメンバーに感謝の言葉を送ります。

2017 年 4 月 26 日

第 18 回 FSP 中国 記録広報班一同

第 18 回 FSP 中国 全体報告書

平成 29 年 04 月 26 日

編 集 第 18 回 FSP 中国 記録広報班 (柏倉、佐藤、牧野、松原)
問合せ先 北海道大学 国際連携機構 国際オフィサー室 (国際交流課)
電話 : (011) 706-8040/8032
Email : ambitious@oia.hokudai.ac.jp
Facebook : <https://www.facebook.com/1ststepprogram>
Twitter : https://twitter.com/fsp_171819